

カザフスタン

主要データ

国名〔英名〕	カザフスタン共和国〔Republic of Kazakhstan〕
面積(km ²)	2,724,900
海岸線延長(km)	0
人口(百万人)	15.4
人口密度(人/km ²)	5.7
GDP(10億US\$)	135,601
一人当たりGDP(US\$)	8,719
一人当たり銅使用量(kg/人)	5.5
主要鉱産物：鉱石(千t)	銅:419.9、クロム:3,629.0、ウラン:8,521.0(t)
主要鉱産物：地金(千t)	銅:399.9、亜鉛:365.6
鉱業管轄官庁	エネルギー・鉱物資源省、地質・地下資源利用委員会
鉱業関連政府機関	エネルギー・鉱物資源省、地質・地下資源利用委員会 国家埋蔵委員会
鉱業法	地下資源・資源利用法
ロイヤルティ	Mineral Extraction Tax(MET):0.3~24.0%
外資法	外国投資法
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	環境法(環境影響評価制度あり)
鉱業公社	Kazatomprom
鉱業活動中の民間企業	Kazakhmys(一部政府保有)、ENRC(一部政府保有)、Glencore International
近年の鉱業関係問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	・2007年以降政府が既存ライセンスについて、義務等の実施状況のレビューを行うなど、国の関与の強化の動きが見られ、また、カザフスタン資本の大企業では、買収を核とした事業多角化、業務拡大の動きが見られる。
2008年のトピックス	・2008年11月、鉱物採掘税の導入など鉱業に係る税制が改正され、2009年1月から実施された。 ・2009年1月、国有の鉱業持株会社「Tau-Ken Samruk」が設立された。

1. 鉱業一般概況

カザフスタンの非鉄金属鉱業は、所謂資源ブームに乗る形で、2005年以降、ロンドン等での株式上場により資金調達するとともにエネルギーなど鉱業以外の分野も含めた事業拡大を図ってきた。

具体的には、2005年10月にCIS諸国の鉱業企業として初めてロンドン証券取引所で新規株式公開(IPO)を行ったKazakhmysを先鞭とするIPOブームの兆しやM&A・企業再編が進んでいる。その後2005年にはKazakh Gold社が、また、2006年には石油企業であるKazmunaigasがロンドンでのIPOを行っている。また、非鉄金属

分野では、傘下に多くの非鉄金属鉱業・製錬業を擁する持株会社であるENRC(Eurasian Natural Resource Corporation)の成長が著しく、カザフスタンのGDPの5%を産出するに至っている。ENRC社は2006年12月には自らの英国法人をロンドンに立ち上げ、2007年12月には、ロンドンでのIPOを成功裏に完了した。

他方、同国では2005年10月に地下資源法が改正され、以降、主に石油ガスなど戦略資源に対して国が関与を強める傾向が顕著になっている。

2007年後半から2008年前半にかけては、過去に発行された鉱業ライセンスの見直しが行わ

れたほか、2009年初からは、鉱物資源採掘に関して新たな税制(Mineral Extraction Tax)が導入された。

さらに、2009年1月には、政府(正確には政府が保有する国家福祉基金(Samruk Kazyna))の下に「Tau-Ken Samruk」という名称の国有の鉱業持株会社が設立された。

Tau-Ken Samruk は、従前政府が保有していた ENRC (11.65%)、Kazakhmys (14.99%)等の株式を引き継いだ持株会社の形式をとり、カザフ政府が100%保有するウラン企業 Kazatomprom 社の株式(現在 Samruk Kazyna が保有)も「Tau-Ken Samruk」に移管されている。

ウランに関しては、中国、ロシア、仏などとのウラン開発、下流展開をめぐる協力の動きも進んでいる。

2006年3月のロシアとの合意を受けて同年12月、ロシア側の Tekhsnabeksport (国営核燃料輸出企業) と Kazatomprom のウラン採掘・処理を行う J/V が設立された(その後ロシア側業界再編に伴いロシア部分は ARMZ (Atomredmetzoloto)が承継)。

2007年4月には東芝(株)と原子力発電所建設やウラン開発、燃料加工に関して提携合意、また、2008年6月には仏 AREVA 社との提携を締結した。

2. 鉱業政策の主な動き

- 2007年後半以降 2008年前半にかけて、既存権益も含めライセンス管理、税制面で国の関与を強める動きが見られる。
- 2008年2月に、ナザルバエフ大統領は、所信演説の中で、カザフスタンの独立直後に不利な条件で締結されたエネルギー等資源

開発契約を見直し、国の関与を強めると宣言した。見直しは2007年から行われており、その結果 97 件のライセンスが剥奪され、180 件に対して義務不履行があるとして警告がなされた。

- 2008年4月には輸出課税導入の動きが報じられた。これに対しては Kazakhmys、ENRC を含む関係企業が直ちに反対の意を表明した。その後政府は、利害関係者の意見も聞きつつ税法案の検討を続け、8月に法案を国会に提出、11月末の大統領の署名を経て、2009年1月から新たな税制が施行されるにいたった。
- 新税制では、資源開発分野には新たに鉱物採掘税(Mineral extraction tax)が導入された。これは、採掘コストと市場価格をベースとした生産額に基づき算定され、銅 8%、亜鉛 9%、金、銀、白金及びパラジウム 6.0%、クロム 17%、ウラン 24%などとなっている(表1参照)。
- 他方、合わせて法人税の減税(2011年まで現行 30%を 15%に軽減)や、その他関連制度の改正の中で手続の簡素化等も行われた。
- なお、鉱物採掘税に関しては、2008年後半以降の世界的な金融危機、資源価格の低下に対応して、2009年3月、一時的な減税を行うことが決定された。具体的には、2009年度赤字の企業に対しては、個々の鉱種ごとに低減した税率が適用されることとなった。

表 1. カザフスタンの鉱物採掘税率一覧 (2009. 1. 1 実施) ※

	鉱物	種類(分類)	税率(%)
1	Ores of ferrous, non-ferrous and radioactive metals	Chromium ore (concentrate)	17.0
		Manganese, iron-manganese ore (concentrate)	3.0
		Ironstone (concentrate, iron nugget)	3.5
		Uranium (product solution, mining method)	24.0
2	Metals	Cooper	8.0
		Zink	9.0
		Plumb	8.5
		Golden, Silver, Platinum, Palladium	6.0
		Aluminum	0.3
		Stannum, Nickel	6.0
3	Mineral raw materials containing metals	Vanadium	4.0
		Chrome, Titanium, Magnesium, Cobalt, Wolframium, Bismuth, Stibium, Azoque, Arsenic and others	6.0
4	Mineral raw materials containing rare metals	Columbium, Lanthanum, Cerium, Zirconium	7.7
		Gallium	1.0
5	Mineral raw materials containing disseminated metals	Selenium, Tellurium, Molybdenum	7.0
		Scandium, Germanium, Rubidium, Cesium, Cadmium, Indium, Thallium, Hafnium, Rhenium, Osmium	6.0
6	Mineral raw materials containing radioactive metals	Radium, Thorium	5.0
7	Mineral raw materials containing non-metals	Fossil coal, Brown coal, Oil shale	00
		Phosphate	4.0
		Boric anhydrite	3.5
		Heavy barite	4.5
		Talcum	2.0
		Fluorite	3.0
		Volastonite	3.5
		Shungite	2.0
Graphite and others	3.5		

※税率は、2009年3月からの減税前のもの。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要非鉄金属鉱石生産量

表 2. カザフスタンの金属鉱石生産量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)
銅	446.3	406.5	419.9	3.3
鉛	48.1	40.2	39.0	-3.0
亜鉛	404.6	386.0	386.8	0.2
ボーキサイト	4,884.0	4,942.6	5,160.0	4.4
クロム	3,366.0	3,687.0	3,629.0	-1.6
マンガン	2,531.1	2,482.0	2,197.7	-11.5
モリブデン	0.4	0.6	0.6	0.0
金(t)	21.4	21.4	20.9	-2.3
銀(t)	806.1	721.8	681.8	-5.5
ビスマス(t)	57.0	40.0	40.0	0.0
ウラン(t)	5,279.0	6,637.0	8,521.0	28.4

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2009)

(2) 主要非鉄金属地金生産量

表 3. カザフスタンの金属地金生産量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)
銅	429.7	406.1	399.9	-1.5
鉛	116.0	117.6	105.9	-9.9
亜鉛	364.8	358.2	365.6	2.1
チタン(スポンジ)	15.0	15.0	15.0	0.0
セレン(t)	40.0	40.0	40.0	0.0
テルル	20.0	20.0	20.0	0.0

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2009)

(3) 主要非鉄金属消費量

表 4. カザフスタンの金属地金消費量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)
銅	72.0	62.3	84.0	34.8
鉛	19.3	17.1	17.1	0.0
亜鉛	30.0	30.0	30.0	0.0

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2009)

(4) 主要非鉄金属輸出量

表 5. カザフスタンの金属精鉱及び地金輸出量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)	主な輸出相手国
銅鉱	20.5	54.9	77.0	40.3	
銅地金	356.6	348.5	343.7	-1.4	中国、トルコ
鉛地金	96.9	104.4	88.0	-15.7	トルコ、露、ウクライナ
亜鉛鉱	165.4	237.8	106.4	-55.3	
亜鉛地金	280.5	307.2	280.9	-8.6	中国、伊、トルコ

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2009)

(5) 主要非鉄金属輸入量

表 6. カザフスタンの金属精鉱及び地金輸入量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)	主な輸入相手国
銅鉱	4.1	0.0	0.0	0.0	
銅地金	0.9	2.7	0.6	-77.8	
鉛鉱	42.2	30.5	NA	NA	
鉛地金	0.2	3.8	4.7	23.7	

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2008)

4. 鉱山・製錬所状況

表 7. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業(権益：%)	鉱種	生産量(千 t)	備考
Balkhash Complex	Kazakhmys(100%)	銅	38.8	・Kounrad、Shatyrkul、Sayk(I、III) 鉱山からなる。 ・生産量：2008年
		金	-	
		銀	-	
Zhezkazgan Complex	Kazakhmys(100%)	銅	176.2	・North、South、Stepnoy、East、West、Annesky、Zhomart 鉱山からなる。 ・生産量：2008年
		銀	-	
East Region	Kazakhmys(100%)	銅	110.7	・Orlovsky、Belousovsky、Irtyshtsky、Nikolayevsky、Artemyevsky 鉱山等からなる。 ・生産量：2008年
		亜鉛	-	
		金	-	
		銀	-	
Karaganda Region	Kazakhmys(100%)	銅	38.4	・Abyz、Akbastau、Nurkazgan、Kosmurun 鉱山からなる。 ・生産量：2008年
		亜鉛	-	
		金	-	
		銀	-	
Kazinc 社	Glencore International(76%)、 カザフスタン政府(14.25%)、他	亜鉛	299.4	・Maleevsky、Grekhovsky、Tishinsky 鉱山等保有。 ・生産量：2008年
		銅	56.7	
		鉛	90.4	
		銀	-	
Donskoy	Kazchrome(ENRC(100%))	クロム	3,550	・生産量：2008年
Zholymbet	KazakhGold(100%)	金	42.5千oz (1.3t)	・生産量：2008年
Akzhal	ChTPZ(100%)	亜鉛	32.3	・ChTPZ Group: Chelyabinsk Zinc Plant(露) ・生産量：2008年
		鉛	5.7	
<Northern/Stepnoye>				
Akdala	Uranium One(70%)、 Kazatomprom(30%)	ウラン	1.2	・生産量：2007年
Budyonovskoye(I~IV)	Kazatomprom(50%)、 ARMZ(50%)	ウラン	試験生産	・ARMZ: Atomredmetzoloto(露) ・Iは2007年試験生産開始。
Inkai(I~III)	Cameco(60%)、 Kazatomprom(40%)	ウラン	0.2	・生産量：2008年
South Inkai	Uranium One(70%)、 Kazatomprom(30%)	ウラン	0.5	・生産量：2008年
Mynkuduk(East, Central)	Kazatomprom(100%)	ウラン	1.2	・生産量：2007年
West Mynkuduk	Kazatomprom(65%)、 住友他(35%)	ウラン	0.1	・2007年試験生産開始。 ・生産量：2008年
<Central/East>				
South Moinkum	Areva(51%)、 Kazatomprom(49%)	ウラン	1.0	・生産量：2007年
Kanzhugan	Kazatomprom(100%)	ウラン	0.3 (生産能力)	
<Western>				
Irkol	Kazatomprom(51%)、 CGNPC(49%)	ウラン	開発中	・CGNPC: China Guandong Nuclear Power (中)
Kharasan(I、II)	丸紅他(40%)、 Kazatomprom(30%)、 Uranium One(30%)	ウラン	試験生産	・Iは、2009年4月試験生産開始。
Karamurun	Kazatomprom(100%)	ウラン	0.7	・生産量：2008年
<Southern>				
Zarechnoye	Kazatomprom(49.33%)、 ARMZ(50%)、Kara-Baltinski Mining Combine(キルギス)(0.67%)	ウラン	0.2	・生産量：2008年



図 1. カザフスタンの主な鉱山・製錬所の位置図

表 8. 製錬・精製所生産状況

	権益所有企業 (権益：%)	鉱種	生産量 (千 t)	備考
Balkhash 銅製錬所	Kazakhmys (100%)	銅	150.0	・生産量：2008年
Balkhash 銅精錬所	Kazakhmys (100%)	銅	197.4	・生産量：2008年
Balkhash 亜鉛精錬所	Kazakhmys (100%)	亜鉛	47.5	・生産量：2008年
Zeekazgan 銅製錬所	Kazakhmys (100%)	銅	240.0	・生産量：2008年
Zeekazgan 銅精錬所	Kazakhmys (100%)	銅	180.7	・生産量：2008年
Ust-Kamenogorsk 鉛亜鉛 精錬所	Glencore International	亜鉛	199.0	・生産量：2008年
		鉛	-	
Ridder 亜鉛精錬所	Glencore International	亜鉛	110.0	・生産量：2008年
Aksu フェロクロム・プラ ント	ENRC (100%)	フェロクロム	1,070.0	・生産量：2007年
Aktybinsk フェロアロ イ・プラント	ENRC (100%)	フェロアロイ	203.0	・生産量：2007年

5. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

表 9. カザフスタンの日本への精鉱及び地金輸出货量

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008/2007(%)
鉛地金(t)	NA	20	3,164	15,820
亜鉛地金(t)	5,417	3,329	324	10
フェロクロム(千t)	272	282	291	103
希土類原料・製品(t)	144	245	528	216

(出典：財務省貿易統計)

(2) 日本企業による投資状況

官民上げた資源外交等によりウラン開発分野への日本企業の参画が進んでいる。

2006年1月には、住友商事と関西電力がKazatomprom社と共同でウラン鉱山開発を行うことに合意した。West Mynkuduk 鉱床の開発会社 Appak 社(出資比率：Kazatomprom 65%、住友商事 25%、関西電力 10%)に事業出資するもので、同プロジェクトは 2007年6月に試験生産を開始した。

2006年8月、我が国現職総理大臣として初めて、小泉総理がカザフスタンを公式訪問し、ナザルバーエフ大統領と首脳会談を行った。その際「日本国とカザフスタン共和国との間の友好、パートナーシップと協力の一層の発展に関する共同声明」と「原子力の平和的利用の分野における協力の促進に関する日本国政府とカザフスタン共和国政府との間の覚書」が署名された。共同声明においては、石油、ウランその他の天然資源の探鉱、開発及び加工分野における日本企業、JOGMEC、JBIC 及び NEXI の積極的な関与への期待が表明され、覚書においては、ウラン開発、加工分野において今後、両国間の交流及び協力を進めていくことが合意された。

2007年4月には、甘利経済産業大臣が、原子力関連業界(商社、電力会社、原子力メーカー等)、独立行政法人トップとともに総勢 150 人の官民ミッションで訪問。その際、ウラン権益、核燃料加工事業協力等 7 分野、24 項目の協力案件に合意した。ウラン上流開発では、丸紅、東京電力、中部電力による Kharasan 鉱山開発への参加(出資)も含まれる。この際、JOGMEC は、地質・地下資源利用委員会との間で、レアメタル、レアアース、ベースメタル等の鉱物資源の共同地質調査の実施等の協力に関する基本合意書を締結した。

2008年5月には山本経済産業大臣政務官がカザフスタンを訪問し、エネルギー資源協力や産業協力についてフォローアップするとともに、ムインバエフ・エネルギー鉱物資源大臣との間で覚書を締結した。

また、2008年6月にはナザルバーエフ大統領が来日し、福田総理との首脳会談においてウラン開発含む原子力分野での協力関係含む両国関係の強化を図ることとで一致した。

2008年7月には、前年の覚書合意に基づき JOGMEC は地質・地下資源利用委員会と共同で、同国 Ushkol-Mulaly 地域でのタングステンの調査を開始した。

6. その他トピックス

2009年5月21日、国家福祉基金(Samruk Kazyna)の決定により、Kazatomprom のジャキシェフ社長が解任された。同社長の解任は、最高検察庁の上申に基づくものとも報じられており、同社長は同月25日に、過去の外国企業等とのウラン資源の権益の取引に関する不正の疑いで逮捕された。また、Kazatomprom の複数の幹部も逮捕されている模様である。

その直後に国家福祉基金は、ウラン(Kazatomprom)のみならず石油・ガス分野(KazMunaiGas)も含めて、過去の海外企業への権益譲渡が適切なものであったかどうか調査を行うと発表している。

(2009.6/ロンドン事務所 及川 洋)